

講義名	定性的方法論研究			授業形態	
担当教員	青木 良三	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

- ・本講義では、定性的方法論のうち主に事例研究と参与観察について解説します。
- ・アンケート調査などを行ってデータを収集し、分析する定量分析に対して、この定性分析は比較的少ない事例、観察対象からの情報に基づいて因果関係を探るため、分析作業には困難をともないます。
- ・学生が主体的に資料収集を行い、自らの問題意識に沿って資料を読み込み、事例研究や参与観察の結果をまとめていく、といった一連の作業を行います。
- ・随時、受講生による発表と討論を行います。

到達目標

- ・受講者は、定性的方法論に習熟することによって、修士論文執筆を円滑に進めることができるようになります。

提出課題

- ・事例研究のレポートか参与観察ノートのいずれかの提出を求めます。内容の詳細については、授業の際に説明します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- ・提出されたレポートについて、授業でコメントします。

評価の基準

- ・毎回の発表内容、授業での発言回数、最終レポートの内容等を総合的に判断して評価します。配点は、平常点40点、最終レポート60点とします。

履修にあたっての注意・助言他

- ・授業では毎回発言を求めます。受講者がお互いに切磋琢磨することを期待しているため、欠席・遅刻・早退はしないようにしてください。

教科書

.使用しない.

参考図書

.リサーチ・デザイン.	田村正紀	白桃書房	2619	4561264574
.ケース・スタディの方法.	ロバート・K・イン	千倉書房	3850	4805109777
.エスノグラフィー入門.	小田博志	春秋社	3300	4393499115

その他

- ・キャンバスクロスから資料をダウンロードできるようにします。

授業計画

1. テーマの探し方（理論を適用できそうなケースを探す）
2. 資料収集の仕方と資料の読み込み
- 3-5. 課題の設定（問題意識）と問題の構造
ロジックツリー（原因の追及と諸要因の関係）
ロジックツリーの作成と発表
6. 仮説の立て方（仮説を作ってみる）
7. 事例の選択、因果関係
- 8-9. 事例を紹介するレポート発表および討論
10. 事例研究まとめ（因果関係を探る）
11. 参与観察とエスノグラフィー
12. 参与観察ノートの作成
13. 聞き取り調査（インタビュー）
14. 参与観察、聞き取り調査から得た情報に基づき概念化
15. 参与観察ノート発表および討論

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="checkbox"/> A: PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> I: 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> U: ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> E: グループワーク
<input type="checkbox"/> O: プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> C: 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K: その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・テキストとして指定しませんが、参考文献の「リサーチ・デザイン」か「マネジメント・リサーチの方法」かいずれかを予習として読んでください。
- ・復習では毎回の授業内容をしっかり理解できているか確認してください。
- ・予習に2時間、復習に2時間を目安にしてください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- ・本講義を通して定性的方法論を身につけることにより、研究課題に対して理論的、実践的な分析ができるようになります。
- ・本講義を通して修得した定性的方法論により、専門的な研究を行い、修士論文あるいは課題研究の成果を完成させることができます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・講義の際、質疑応答を行います。いろいろな質問をしますので、積極的に発言してください。
- ・みなさんの発表を受けて、ディスカッションをします。

実務経験の有無及び活用

- ・実務経験あり。1979年から1997年まで銀行に勤務。産業調査や融資、ファンド運用を担当しました。例をあげながら、事例研究や参与観察について説明できます。

備考